

抗血小板作用をもつ製剤の内視鏡前の休薬期間

	一般名（商品名）	持続時間	休薬期間
抗血小板剤	塩酸チクロピリジン（パナルジン）	8～10日	7日
	硫酸クロピドグレル（プラビックス）	8～10日	7日
	アスピリン（バファリン81mg、バイアスピリン）	7～10日	7日
	イコサペント酸エチル（エパデール）	7～10日	7日
	シロスタゾール（プレタール）	0.5～1日	3日
	塩酸サルポグレラート（アンプラーグ）	12時間	1日
プロスタグランジン製剤	リマプロストアルファデクス（オパールモン）	3時間	1日
	ベラプロストナトリウム（ドルナー、プロサイリン）	6時間	1日
冠血管拡張剤	ジピリダモール（ペルサンチン）	—	1日
	トラピジル（ロコルナール）	24時間	2日
	塩酸ジラゼプ（コメリアン）	—	2日
脳血管代謝改善剤	イブジラスト（ケタス）	—	3日
	酒石酸イフェンプロジル（セロクラルール）	—	2日
抗凝固剤	ワルファリンカリウム（ワーファリン）	2～3日	4日

* 上記は、当院での内視鏡前の抗凝固剤中止の目安です。なお、心房細動がある患者で、抗凝固剤を中止した場合、脳梗塞を起こす可能性は約1%とされています。

* また狭心症で冠動脈ステントを置いた場合は、可能な限り抗凝固剤の中止は避けることとされています